

F-20 明治以降における家政に関する教育の発達について (ヲ/報—4)
東京家政学院大家政 手塚六郎 中村ヨシ 亀高京子 熊田知恵
板谷麗子 ○三東純子

目的 ヲ/報—1と同じ

方法 ヲ/報—1においてとり上げたものと同じ著書について、現在の家族経済学で取扱われている内容と同一または類似の事項を収集し、その範囲、考え方、取扱い方などを調査し、これを当時の家政に関する考え方や社会的背景と関連づけて考察した。

結果 政治経済の近代化が進み、翻訳家政書が出版されたのに伴ない、翻訳以外の家政書の家族経済に関する部分においてもそれらの影響が徐々に現われる。

この時期を通して、底流にある共通的考え方は「儉約」であって、それとの関連において吝嗇との区別、些少の費への注意、分限にたずること、生活全体を考へること、買物のし方や生活物資の活用などをもとり上げるものが多い。しかし、収入については、入るを量って出するを制するためにはふれる程度の扱いしかしていない。

金銭出納の技術や家計簿記については章を設けてあるものが多い。それだけでなく、料理や裁縫その他の多くの章の中にも儉約の思想が随所に見られるので、此の時期には経済の親身から家庭の運営を考えていると云ってよいと思われる。